

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No.

4

2005年4月発行

平成16年度事業報告

- I 事業期間 平成16年4月9日 ～ 平成16年12月31日
設立時から事業年度終了まで。
地域生活サポートネットほうぶの事業年度は1月1日から12月31日。

II 事業報告

平成16年度は、子育て支援事業、障害児余暇活動支援事業、セルフヘルプグループ支援事業、生涯学習事業に取り組み、生江人権文化センター機関紙や旭区報の「広報あさひ」などにより地域住民への広報を行なうことができた。

子育て支援事業においては、日本財団助成金により、子育て講座の開催や子育て支援情報誌(子育て支援マップ)の作成に取り組み、子育てサークル活動の活性化と地域への広報活動を行なった。

障害児余暇活動支援事業においては、日本財団助成金により、音楽広場(障害児対象の音楽療法)を旭区内で開催し、参加者のニーズを満たす充実した内容を提供することができた。小学校に通学している障害児の保護者の協力を得て、保護者を対象にした就学前相談会を開催することができた。また、旭区の小学校養護学級在籍児童保護者への地域支援のためのアンケート調査を実施して今後の活動の基盤を築くことができた。ニーズが高かった通園通学支援と個別活動支援は、ボランティアの募集及びボランティア養成が進まず、実施することができなかった。

セルフヘルプグループ支援事業においては、脳血管障害当事者会「あさひの会」、不登校の親の会「サークル虹」、医療的ケアの必要な子どもの家族の会「こころ」などにおいて、相談業務や情報の提供と地域への広報活動を行なった。

生涯学習事業においては、地域の生涯学習講座やボランティア講座へのほうぶのスタッフによる講師派遣を中心に行なった。派遣先は、大阪市立両国青少年会館、南海福祉専門学校、子育ていろいろ相談センターなど。また、旭区社会福祉協議会とおとしよりすこやかセンターと共催で、ボランティア講座を企画開催した。ボランティア活動をする個人及び団体だけでなく地域住民に対しての地域福祉への意識の向上をはかる取り組みをした。

子育て支援

ママのくちコミ情報誌

完成しました！

子SODATE OTASUKE MAP

(子育ておたすけマップ)

旭 区 版

発行にあたって

2003年、「つながりあい支えあって、みんなで元気に子育てしましょう」と、区内の子育てサークルのお母さん達に呼びかけて、旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」を立ち上げました。小さな子どもを育てながらサークル活動やボランティア活動をするママ達や、若いママのサポートをしていきたいと熱い思いをもってボランティア活動をしているベテランママ達が、時々集まって情報を交換し合ったり、子育て講座の開催をしたりしてきました。

「子育ては楽しいけど、大変」「子どもはかわいいけど、しんどくなる時も…」

子育て講座に参加してくださったお母さん達から、そんな声をたくさん聴きました。迷い悩みながらの子育ては、子どもとともに、きっと貴方自身も成長させています。子育てに「正解」なんてないのです。でも、1人で悩んでいるのは、ちょっと寂しいですね。

1人でストレスを抱え込まないで、おしゃべりしませんか？

近くのサークルに参加してみましょ！ つながって楽しく子育てしましょう！

子どもやお友だちと食事に行きましょう！ 子ども連れで美容院にも行きましょう！

散歩や買い物に出かけましょう！ いろんな情報をキャッチしましょう！

1人でも多くの子育て中の方々が、笑って子育てできる旭区になってほしいと思います。子ども達が、ありのままを受けとめられて、いきいきと育っていく旭区であってほしいと思います。そんな想いを込めて、この「おたすけマップ」を作りました。

このマップは、「きしゃぽっぽ」のメンバー達が協力しあって集めた地域情報とともに、ママ達の視点で集めた口コミ情報も掲載しています。ママ達の元気が詰まっています。あなたも一緒に元気になりませんか？

この冊子が、みなさんの子育ての楽しみを増やすことに活用していただければ幸いです。

発行 NPO法人地域生活サポートネットほうぶ

協力 旭区子育てネットワークきしゃぽっぽ

この冊子は日本財団助成金で作成しました。



障害児地域生活支援

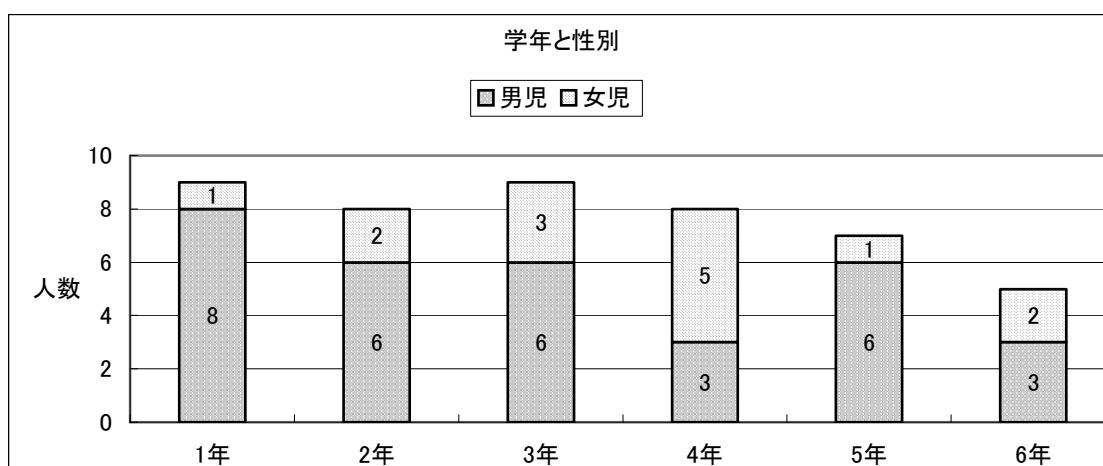
旭区の小学校の養護学級在籍児童の保護者対象 アンケート結果報告

○調査の概要

この調査は、旭区内の小学校の養護学級在籍児童の保護者を対象に、どのような支援を必要としているかを把握し、地域で何をサポートし、学校や家庭とどうつながっていくのかを検討することを目的として、2004年12月実施しました。

配布数	回収数	回収率
80	46	57.5%

(各小学校養護学級の保護者あるいは教師からの手渡しにより配布を行い、平成2004年12月10日までに無記名郵送を基本として回収した。)



(回答のあった46人の学年と性別)

○調査結果から

■調査対象者について

調査対象者数が80名、回答者数が46名(回答率58%)であり、統計的に分析することは難しいが、学年を見ると、6年生が5名と少なかったものの、1年生から5年生は、8名前後の平均した回答数があり、全体的なニーズの収集には役立ったと考えている。

回答のあった46人中、療育手帳Aの児童が12人、身体障害者手帳1級の児童が4人おり、1割超の児童が両方の手帳を持っている。一方、2割の児童が手帳を持っていない。手帳の有無で障害の状態を把握することはできないが、身体的にも知的にも重度の障害をもつ児童から軽度の発達障害まで、さまざまな児童が在籍していることが予想される。

■家庭での介護の状況について

コミュニケーションについては、家族と「言葉で自由に会話ができる」児童が37%に対し、家族以外とでは22%になり、家族と「意志伝達が難しい」児童は2%に対し、家族以外とでは9%となっている。家族とはコミュニケーションがとりやすい状況にあると考えるが、サポーターの工夫や配慮の必要性も感じる。

介助の状況については、外出時の介助を必要とする児童が約6割を占め、一人での外出が困難な児童が多くみられた。排泄、着替え、入浴については、半数近くが介助の必要性がある。介助の内容については、排便時の始末や、着替え時の衣類の前後・裏表の理解、ボタンの付け外し、入浴時の洗髪などが多くあがっている。介助者は、両親のみが35%であり、両親・祖父母・兄弟姉妹を含めた家族が7割以上を占め、そのうち、主な介助者は母親が85%であった(未回答を除く)。調査対象者についての調査結果においても、病院や訓練施設への通院通園の際の介助者は、多くが母親となっており、母親の担う役割が大きいことがわかる。

■就学前の状況及び就学について

就学前の保護者の不安は大きいですが、相談相手は、家庭児童相談室や教育センターなどの専門機関が目立ち、子どもの日常を知っている幼稚園・保育所の教師・保育士が予想外に少なく、幼稚園・保育所と小学校との連携があまりとれていないこともわかった。引継ぎを密に行なっていく必要性を感じる。

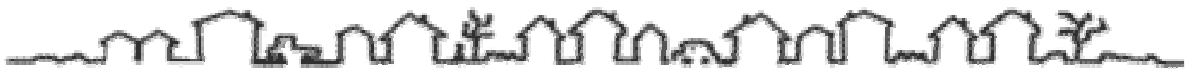
■学校生活について

授業中の介助については、全介助の重度の障害をもつにもかかわらず、常時介助者(教師)が付いていない児童から、なんとか言葉で意志伝達ができたり、手帳を持っていなかったりするが常時介助者が付く児童まで、状況はさまざまで、学校により、教員の体制が大きく異なることが推測できる。回答者の9割以上の児童が通常の学級を基本として学校生活を送っている。

登下校については、保護者、特に母親の担う割合が大きく、送迎介助のニーズが高い。近年登下校時の事件が多いことから見守り支援を希望する保護者も多い。

学校生活においてうれしかったことは、友達と関わる中での出来事が多い。一方、悩みについても、友達との関わり方、いじめのことなどが多くあがっている。また、学習面での不安、教員が少なくサポート体制が充分でないことへの不安が多くみられ、希望することとして、教員体制の充実、教師の障害や人権に対する理解、学習内容の工夫を求める保護者が多い。

卒業後の進路については、中学校を希望する保護者が67%である一方で、考え中の保護者も26%であり、理由として、学習面への不安、中学校の情報の少なさがあがっている。



■余暇について

余暇の過ごし方については、平日の放課後と土曜日は、自宅で家族と過ごす日が多く、次いで、いきいき教室、塾や習い事の日が多く、学校の外で友達と遊んで過ごす日は少なかった。日曜祝日は、外出も多いが、ほとんどが家族と一緒に過ごしている。趣味やスポーツ活動については、障害の程度に関わらず、家庭による差が大きいと感じる。

■福祉サービスについて

福祉サービスの利用は少なく、支援費制度を知らない保護者が4割以上もあり、知っていると応えた中でも制度を理解していない回答があった。また、利用しようと申請したが、役所で断られたケースもあった。支援費制度もボランティアも利用していない家庭が、57%もあり、家族で抱え込んでいる現状がうかがえる。

■保護者の希望や思いについて

85%の保護者が、悩みを抱えながら子育てをしている。その内容としては、勉強のこと、友達との関係、進路のことが多く、学校に関係した内容が多くなっている。相談相手は、家族が最も多く、次いで友人、学校があがっている。

サポーターに伝えたいことでは、障害の特性、コミュニケーションのとり方などが多く、今後、サポートブックの作成についても検討していきたい。

保護者が望む支援内容は4領域に大別され、

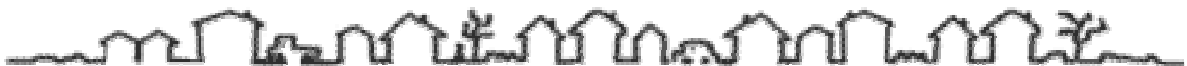
- ① 通学送迎や勉強面のサポートなどの通学を含めた学校生活の支援
- ② 放課後や休日の余暇やレクリエーションの支援
- ③ 障害児の保護者の交流や情報提供など多様な相談支援体制
- ④ 地域住民への啓発やボランティアのコーディネート、サポーターの育成などの地域社会とのかかわりを促進するための支援

が求められている。

(以上、アンケート報告書からの抜粋)

アンケート結果の保護者が望む支援については、ボランティアの養成やコーディネート、及び、保護者とともに取り組んでいくための勉強会やイベントなど、今後の地域生活支援の活動の参考にしていきたいと思います。

今回のアンケート報告書には、保護者の意見を多く載せましたので、学校教育においても活用していただくと考えています。アンケートにご協力いただいた80名の保護者の方々と旭区の各小学校（10校）の校長先生宛てに報告書を送付しました。



グループ紹介

草の根ネットワーク **ねっこ**

「草の根ネットワーク ねっこ」は、旭区内の精神、知的、身体などさまざまな障害をもつ人たちの通う9福祉作業所、1市民団体、1施設（関連する施設及び作業所、グループホームを入れると2施設13作業所8グループホーム）の有志とボランティアからなるネットワークグループです。2002年、地域の中で地域の人たちとつながって暮らしたいという思いを持って集まり、活動を続けています。旭区社会福祉協議会のボランティアビューローを拠点として活動をしています。

千林商店街振興組合の方々のご協力のもと、千林商店街の探索を行ったり、車椅子対応トイレの調査を行ない、トイレOKシールの活動や旭区車椅子対応トイレマップを発行したりしました。探索の過程で、住みよいまちづくりを進めていけたらと、考えています。トイレOKシールの活動は、旭区内の車椅子対応トイレのあるさまざまな施設を訪ね、通りかかりの車椅子使用の方にトイレを貸していただくようお願いをし、玄関にOKシールを貼っていただくというものです。2005年3月現在で、高齢者福祉施設や公共施設、小学校など、50施設がご協力くださっています。

これらの活動を通じて、たくさんの方々に出会い、つながっていきたいと思っています。地域のいろんな問題を地域住民みんなで考えることのできる旭区になることを願っています。今後、アクションプラン(旭区地域福祉計画)への参加など、まちづくり活動を行なっていきたいと思っています。

定例会 日 時 毎月 第4 水曜日 午前10時半～12時
(会場の都合により変更になる場合があります)
場 所 旭区在宅サービスセンター
住所 〒535-0031 大阪市旭区高殿6丁目16-1
電話 06-6957-2200 (代)

お問い合わせ先 電話 06-6953-2655
(NPO 法人 地域生活サポートネットほうぷ気付)

知っていますか？
車椅子対応OKシール
車椅子対応トイレのある施設の
ご協力をお願いします。



おもちゃ箱

脇田 寛史

私は仕事で、「障害を持った者の気持ちなんてなかなか分かってくれへん」と荒れる当事者の方、「その気持ちは理解できるんやけど、それをなかなか受け容れられへんねん」と悩む家族、相手が、親・兄弟・夫婦だからこそ、「余計に強がってしまう」「正直に話せない」とか「腹が立って聴いてやられへん」という声を時折耳にしています。そういう方への「心の支援をしてくれる団体やグループは、この旭区にないものなのか」との思いで幾つかの自立支援センターやボランティアセンター・セルフヘルプ協会などに問い合わせをしたのが、平成13年10月ごろでした。あの頃はまだ、そういった会が旭区にはありませんでした。そういうもどかしい日々を送っている時に旭社協の仲介で出会ったのが向井さんです。当時向井さんも同じような思いを抱えておられ、そこからはとんとん拍子とまでは行きませんでした。翌年の春には数名のメンバーで「あさひの会」を立ち上げることが出来ました。立ち上げ当時を思い出すと「この会をどうやって旭区内で広げていこうか」と向井さんと二人で悩み、区内の診療所や病院へあいさつ回りをした事を昨日のよう思い出します。

この会は一人ひとりがいろいろなご苦労を乗り越え、また乗り越えるために集まっておられる方のための会です。私は参加するたびに施設内では心の壁が邪魔をしてか、話せないような事も、この会の中だから気楽に話が出来た。私にとっては施設職員としては触れる事がなかったような話を聴かせてもらい、当事者の方の苦しみに少し近づく体験をさせて頂いた会です。

いま、この会はセルフヘルプグループとして、会員一人ひとりのお力が集まって、りっぱな活動ができる団体に成長されました。会開設当初より、「会の成長を見て見を引く」お約束をしていたのでもう1年近く参加していません。がこれからも障害の受容に苦しむ多くの方を支援されること、会員の皆様のお力でより発展されることを信じ、活動を見守っております。

リレーエッセイ

